

ヤマダ電機、ナカヤマを完全子会社化

家電量販大手のヤマダ電機は住宅リフォーム事業を手がけるナカヤマ(埼玉県上尾市)を買収する。ヤマダ電機は自社で住宅リフォームを手掛けている。

関東を地盤とするナカヤマを傘下に収めることで、高齢化などで需要拡大が見込めるリフォーム市場の開拓を急ぐ。



ヤマダ電機はすでにナカヤマと業務提携関係にあり、住設機器の販売などで連携している。ナカヤマを子会社化することで相乗効果を引き出す。公正取引委員会の審査などを経て年内の完全子会社化をめざす。買収額は明らかにしていない。

ヤマダ電機はリフォームや家具、雑貨の比重を増やした新型店「家電住まいる館」を開くなど、家電以外の事業拡大を進めている。今後は洗面化粧台などを製造するアサヒ衛陶とも提携して、独自企画の便器など衛生陶器を増やす。

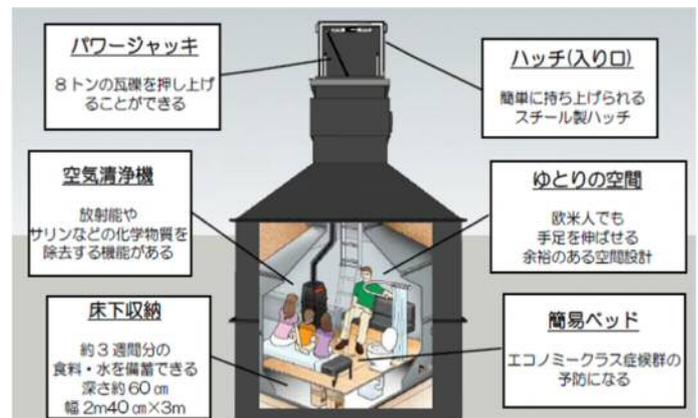
情報提供: 日本経済新聞

七呂建設、自然災害やミサイルから身を守る「家庭用核シェルター」を販売開始

七呂建設(鹿児島市)は、自然災害や北朝鮮の核・ミサイルから身を守る手段として有効な「家庭用核シェルター」を11月17日より九州全域で販売する。

約3週間安全に避難生活がおくれるシェルター「Peace Room(ピースルーム)」は、アメリカのアトラス・サバイバル・シェルターズ社製で品質等はアメリカ軍の基準に準拠。最大4人まで収容可能で、放射能やサリンなどの化学物質を除去する空気清浄機のほか、床下収納、簡易ベッド、簡易トイレが備え付けられている。また、入口についているパワージャッキは8トンの瓦礫を押し上げることが可能。

同社では今後、北朝鮮の脅威だけでなく、巨大地震や噴火などさまざまなリスクに対応できるシェルターの需要が高まると予想。シェルター普及率0.02%の日本において、安全な避難場所として有効な同商品を展開していくという。



情報提供: 新建ハウジング

ドイツ発、ダクトレス24時間熱交換換気システムを発売



エディフィス省エネテック(東京都三鷹市)は、ドイツ・インヴェンタ一社の24時間熱交換換気システム「ヴェントサン ヤーヴェ」を2018年4月に発売する。

同社が2013年から輸入販売を始めた「ヴェントサンシリーズ」は、デセントラルシステムと呼び、**ダクトレスでありながら1台のコントローラで複数の換気ユニットを集中制御できる壁取り付けタイプ。**

新商品は、日本の一般的な木造住宅の壁厚(140mm〜)に対応し、ダクト工事が要らないため施工・メンテナンスがしやすい。最大換気量は29m³/H。約35坪の住宅の場合、設置台数は4台。

情報提供: 新建ハウジング